

# 四郷地区まちづくり協議会だより 臨時号

## 災害情報共有化の重要性について

四郷地区まちづくり協議会会長 多田 靖

もし今年の台風10号が紀伊半島に上陸していれば、四郷地域に住んでいる多くの方が避難所やホテル、親戚宅に避難していたらと思うと思います。五十鈴川や朝熊川、矢田川や一字田川が洪水を引き起こすかどうかより以前に、テレビから流れてくる情報を各々が判断して、自宅から避難するか自宅にいるかを決めることになろうかと思えます。

もし、停電等でテレビからの情報もなくなり、スマートフォンも使えない状態になってしまったら、降水量や川の水位もわからない。情報がないと不安は増すばかりだと思います。この地域の情報を一刻と町民のみなさんに伝えられたら、また聞かれた時に答えられたら、なんらかのお役にたてるのではないかと考えます。

今回、四郷地区まちづくり協議会が伊勢市から助成金をいただき、トランシーバーを10台買い増し、地区内の自治会さんと伊勢市消防団四郷分団に持ってもらい、先般、講習と実技を自治会の役員さんと四郷分団の方々に受けていただきました。

大雨等の災害が起こる可能性がある時は、消防団は水防団を兼ねます。中村・楠部・一字田・朝熊・鹿海町の消防団員が、町別に集まり地域の川の水位や避難所までの経路や道路が冠水しているか等の確認を行います。どこがまだ安全でどこがもう危険なのか、そういう情報をトランシーバーで各自治会の会長さんに連絡をすることで、四郷地域の人が同じ情報を手に入れることができます。

何もわからないのと多少でも何か情報があるのとでは気持ちの持ち方がぜんぜん違うのではないのでしょうか。

もし大きな台風や大きな地震で四郷地域のどこかに災害が起きたときには地域が一体となって助け合い、立ち向かいたいものだと思います。



四郷防災ネットワーク構築事業によせて  
危機管理部次長 宮本 晃

平素は、市の防災行政にご協力いただき、誠にありがとうございます。

近年、局地的な大雨や集中豪雨による内水及び洪水氾濫等による甚大な被害が全国的に多発しており、本市においても平成29年10月の台風第21号では四郷地区を含め広域的に浸水被害を受け、現在、国・県等の関係機関と連携して浸水対策に取り組んでおります。

また、地域での防災講習会実施による住民防災意識の向上、中小河川への危機管理型水位計の設置による水防活動・防災業務、住民の早期避難行動の支援等、防災・減災対策を推進しております。

今回、四郷地区のまち協、自治会、消防団が中心となって実施されている通信機を使用した取組は災害時の状況をリアルタイムに地域内で情報を共有する手段の一つとして非常に役立つものであり、市も含めた関係機関へも情報共有されると、通行止め等の必要な処置をより適切なタイミングで行うことができ、防災体制・避難体制の向上へ繋がることと理解します。

今後も自助・共助・公助のもと、災害時の有効活用に向けた訓練を継続して取り組んでいただき、事前防災対策としての情報ネットワーク構築の推進に、よろしく願います。

## 四郷地区防災ネットワーク構築事業について

鹿海町自治会 区長 下野功純

(四郷地区振興会会長・防災四郷本部)

「災害」「減災」「未然防止」など言葉を聞くと、まずはハード的な対策を進めていくことが大切だと考えますが、これとは別に私が気になることの一つにソフト面での対応、日ごろからの防災意識、特にその中で、平常時、災害時の「正確な情報」ということでしょうか。

現職のころ、学校で避難訓練をした後の講評で、子ども達には、「何が起こって、避難しなければならなくなったのか、まずは正確な情報を聴いて行動しましょう」と言ってきました。当たり前のこととです。

3年前の平成29年10月22日、台風21号により、この伊勢市も大変な水害に見舞われました。その時、鹿海町でも町外に出る黒瀬道、23号線鹿海町信号への道、墓道、楠部道、朝熊道、汐合道のどの道も冠水し、陸の孤島となりました。そして、「避難指示」が出たときには、最寄りの市指定避難所「山商」への避難はできない状態になっていました。公民館から道路冠水の様子や垂直避難のことも触れ放送しました。のちに町民から聞いた話では、高い所にある親戚の家や自分の家の二階に避難したという人もいました。

翌朝、高台にある公民館から見える範囲でも6、7台の車が市道、県道の深みに入ってしまったのか、動けなくなっているのが見えましたし、それ以外でも二見鳥羽ラインのアンダーパスや道路際水路など何か所も車が水没していて、大変な被害でした。その他にも冠水した水が引いて、水没

していたバイクが見つかったということもありました。

このとき痛感したのは、事前の正確な情報収集と「ライブ的な情報発信」ということでした。

特に四郷地区のように、山、川、田畑地、低地と自然がいつぱいで、地勢が複雑な状況では、様々な災害が想定され、災害をなくすことはできなくとも「減災」「防災」につなげていく取り組みがすぐぶる大切ではないかと思えます。

その後、何か月か過ぎて、四郷まち協「住みよい暮らし委員会」主催で、台風21号を振り返って、各町の被害状況などをワークショップ形式で話し合い情報共有をしたところ、他町においても鹿海町同様の被害状況であったことが改めてわかりました。

そんな中、四郷地域としては、各自治会が互いに情報共有し、できるだけ地域住民に正しい情報を発信することにより、少しでも安全安心につなげていくことができればと思うようになりました。

この四郷地区ネットワーク構築事業は、「防災」という言葉をキーワードにし、四郷各自治会が災害時に情報共有できるネットワークを構築したこととなります。これは、様々上述した災害時の課題などを少しでも解消し、地域住民の安全・安心の確保につなげていくということで大変重要な取り組みであると思えます。

ただ、現時点では、ネットワークの有効な運用、規定等まだ未整備の状態ですが、今後に向けて無線機等実際に運用しながら「マニュアル」等を作り上げていきたいと思えます。



楠部町自治会 会長 奥野文生

四郷防災情報ネットワークの運用目的に関しては、消防隊や自衛隊の様に荒れ狂う自然災害の中での情報収集や人命救助ではなくて、行政発信の情報と防災情報ネットワークで共有した情報をベースにして、地域住民に対し早期避難を促すという点にあると個人的に考えます。よって

□ 地域住民には早期避難の重要性や避難先の確認等日頃から防災意識を高める為、自治会においては定期的に啓発活動を行う

□ 四郷防災情報ネットワークとしての、情報収集時のルールの制定（危険回避等）

□ 初期段階での兆候的な情報が住民から集まる様なもう一つのネットワーク構築

などを整備して、地域住民による早期避難に繋げる事が出来れば、それが防災になるのではと考えます。

中村町自治会 会長 今村 実

四郷地区防災ネットワーク構築事業で各町に防災無線の配備ありがとうございました。

さて、近年何年かに一度の大災害と言う言葉を頻繁にテレビ、ラジオ、インターネット等で耳にする機会が増えました。四郷地区においても災害がいつ発生してもおかしくありません。ネットワーク構築により、いち早く情報を伝達し災害の発生を事前に防げたら幸いです。

しかしながら、知りえた情報をどのように使用し災害を防ぐかは、今後の課題かと思えます。

## 緑が丘町内会 会長 新谷 環

最近ではテレビ、スマホ等によりたくさんの防災情報を得ることができるようになりましたが、停電等には、これらの情報が得られないことが考えられます。

そのような時、防災情報を得るために四郷地区防災情報ネットワークがたいへん役に立つものとして期待しています。

防災情報ネットワーク構築の利点としては、

- ① ネットワーク内で気楽に話せること
  - ② それぞれの地域の現場の状況をみんなで一緒に共有できること
  - ③ それぞれ地域の状況を他機関に伝えて情報を共有できること
  - ④ 他機関からの情報をネットワークに伝えて他機関の情報を共有できること
- 今後の課題としては、
- ① 現場で使用するため無線機の損傷が考えられるが修理代金をどうするか
  - ② バッテリーは5年で交換ときくがその費用をどうするか
  - ③ 不感地帯があるがどのように使用するか
  - ④ 応答発信をどうするか、簡潔、明瞭に話す
  - ⑤ 知りえた情報を区民のみなさんにどのようにして伝えるか、が考えられます。

## 一字田町内会 会長 松本鉄夫

この度は、各町への無線機配備ありがとうございました。災害時に、より詳細な被害状況が早く伝達できるものと確信するとともに、四郷のまちづくりには欠かせないものと思います。

さて、防災無線機の説明会や通信訓練を経て、気づいたことを提案させていただきます。

無線機本体の取扱いは文書で記載され説明会で学びましたが防災無線機として、まち協全体でどのように運用していくか？の運用マニュアルを作

る必要があると思います。

### 1 まち協防災本部の設置

- ・ 前回の通信訓練では、下野会長が仕切り役で各町へ無線指示をしていましたが各局がそれぞれ発信すると混線する恐れがある。

- ・ 防災本部が情報を取りまとめて（一元化）各町が共有化する。また得た情報は、防災本部と市役所、消防署とも共有化する。

### 2 開局確認と閉局

- ・ いつ開局するか、また閉局（四郷全体で無線機使用の必要が無くなった時）は？
- ・ 開局時は防災本部と無線機の感度を確認

### 3 発信時の文言例等

他にも色々あると思います。今後も継続的な取り組みとして四郷振興会では運用マニュアルを検討中です。四郷地域の防災力向上と「安全・安心なまちづくり」を目指して皆さんとともに頑張っていきたいと思えます。

## 朝熊町自治会 区長 羽柴忠生

災害時に一番大切なことは、正しい情報を得ることです。今回四郷まちづくり協議会が「四郷防災情報ネットワーク事業」を立ち上げたことは大変意義深い事だと思います。まずは、地元の情報を知ることがもちろん大切なことですが、四郷地区の情報も広く知ることが出来ればより安全、安心につながると思います。そのためには、まちづくり協議会から貸与された無線機は大変役に立つものと考えます。地域住民は、消防車1台が出ても救急車1台がやってきても「どこに何があったの」と飛び出してきました。そんな時に、「実はな」ということで正しい情報を知らせることが出来れば納得し安心してもらえます。今回の無線機はどこまで駆使できるかまだわからないが、とにかく情報を素早くキャッチできる仕組みであることには間違いありません。朝熊山の事故や救急の場合

また町内での情報交換にはぜひ役立てていきたいと考えています。そしていち早く住民に正しい情報を流していきたいと考えています。

## 朝熊町委員会 区長 濱口善隆

異常な気象状況が続く中、全国のあちらこちらで甚大な災害が起きています。7月豪雨では、熊本の球磨川等が氾濫し、多くの尊い命と財産が奪われました。9月の台風10号では「伊勢湾台風並み」、「特別警報級」のスーパー台風といわれ、九州全域を襲いました。

川の氾濫だけでなく、雨の続く中では土砂災害の心配もあります。朝熊町は土砂災害特別警戒区域（急傾斜地）の中で生活しているので大変心配です。

振興会では、8月に四郷地区内の危険箇所を見て回りました。どの町でもそれぞれ深刻で大きな課題を抱えていることがわかりました。後日、市長及び県の局長等との意見交換会の場を持ち、実情や行政の早急な防災対策の必要性を強く訴えました。

災害は、毎年繰り返されます。何時この地域を襲ってくるかわかりませんが、私たちは、自分や家族を守るため、常日頃から防災に対する心構えを持ちたいものです。

期せずしてこの度、まち協の防災情報ネットワーク構築事業により「防災四郷」が立ち上がりました。有事の際、四郷地区の情報

が高性能デジタル無線機によって素早く共有され、防災、減災に効果的に機能し、災害に強い地域となるよう、ネットワーク体制を今後、充実させていかなければと思います。



## ■7月19日(日) 「防災無線機取扱講習会」(会場：四郷地区コミセン会議室)

高性能デジタル無線機を使用して、今後四郷地区に迫り来る様々な災害に対して、地域内の被害情報を速やかに共有化出来るようにするため、まずは無線機自体の取扱講習会を実施しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止により、当日の参加者は各自治会から2名に限定し、消防団四郷分団の地域担当の方々にもご参加頂きました。講師には元自衛官で無線機取扱いに精通されている現NPOチームさくらの向井芳夫氏にお願いし、総勢27名にて実施しました。無線機は一見簡単そうに見えて、実際は携帯と違い一方通行の交信であるため、皆さんなかなか苦戦をされており、大変良い勉強になりました。



## ■8月16日(日) 防災通信実施訓練(会場：四郷地区コミセン会議室・各自治会公民館他)

まず通信グループのコールサインを「防災四郷」と命名し、その本部を四郷地区振興会現会長の下野区長が居られる鹿海町自治会に設置することになりました。(本部は今後振興会会長の自治会に設置と決定)

各自治会のコールサインはお互いが絶対に間違わないように、普段言い慣れている名前にして、それぞれ「なかむら1, 2」「くすべ1, 2」「みどりがおか1」「いちうだ1, 2」「あさまじちかい1, 2」「あさまいんかい1, 2」「かのみ1, 2」「しごうしょうぼう1, 2」に決まりました。

無線機の防災四郷専用チャンネルとして、メインチャンネルとサブチャンネルの2通りを設定しました。

今後定期的に災害時を想定して通信訓練を繰り返すことによって、四郷地域全体の防災基盤を強固なものにしていくことを確認して、この日の訓練は終了いたしました。



左：コールサインやルール取決め風景

中：無線機のCH設定等訓練風景

右：各自治会公民館での通信実施訓練

### 四郷地区まちづくり協議会

事務局：伊勢市鹿海町 994-1 鹿海町公民館内

(開局日：月・水・金 9:00~15:00)

電話 (FAX) 0596-65-6781

メールアドレス：[sigoumatizukuri@mocha.ocn.ne.jp](mailto:sigoumatizukuri@mocha.ocn.ne.jp)

ホームページ：<http://sigoumatikyosakura.ne.jp/>

編集後記：新型コロナ感染が心配されるこの時期に行われた講習会と通信訓練ですが、近年稀に見る「大災害」が頻繁に来ることが想定される以上、それに対する備えは必ずしなければなりません。

四郷の防災無線ネットワークの取組みは今まさに始まったばかりです。私達は災害情報の共有化を目指して、今後継続的に訓練をしていきます！